

山名	槍ヶ岳 3.180m 北穂高岳 3.106m	山行名	例会山行
ルート	上高地⇒横尾⇒槍ヶ岳山荘⇒槍ヶ岳⇒大キレット⇒北穂高小屋⇒涸沢⇒上高地		
山行日	2019年 8月 23日～26日	天候	4日間 曇り快晴
参加者	リーダー： 若林 サブリーダー 中田さん (男性) 木元さん 森本さん 4名 (女性) 秋山さん 北條さん 2名		

ルート概略図 	コースタイム				
	地名	時：分	地名	時：分	
23日バスセンター	着	10:20	槍ヶ岳山荘泊	着	14:15
	発	11:15		発	6:20
横尾山荘	着	14:35	25日北穂高小屋泊	着	16:30
	発	14:55		発	5:45
23日槍ヶ岳山荘	着	18:30	涸沢カール	着	9:55
	発	6:15		発	10:30
槍ヶ岳山荘	着	11:35	横尾山荘	着	13:15
	発	13:15		発	13:40
槍ヶ岳山頂	着	13:45	バスセンター	着	16:30
	発	13:55			

8月23日(金)早朝新田辺をレンタカーにて出発 岐阜県入口迄は大雨の中走行も高山市内に入り雨も上がり26日迄の登山期間中晴天に恵まれた。あかんだな 駐車場に到着後バスターミナルへ30分程で上高地に到着後登山開始 今朝方降った雨のせいか梓川の濁りも有ったが上流に向かうにつれ清流に マイナスイオンを体全体に体感しながら予定通り本日の宿泊地で有る槍ヶ岳山荘に5時間程で到着 ロッジ備え付けの望遠鏡で槍ヶ岳を望み新たな心境にかられた。

翌日24日(金)は珍しい山小屋(槍ヶ岳山荘)の風呂に浸かり早々と床に付く

24日(土)晴天の中6時過ぎ槍ヶ岳山荘をスタート5時間程で槍ヶ岳山荘到着 山荘は団体客もありほぼ満室 暫く休養を取り13時過ぎ 槍ヶ岳にトライ 宮崎交通のツワ客は全員ロープにてビレイ登山も、我々6名は ワイケン訓練のお陰で難なく登頂 山頂には10分程度で下山 明日は難コースへのチャレンジの為早々と床に付く。

25日(日)風は少し強いが雨の心配はなく好条件での登山スタート 距離は4.0km弱も最大難所の大キレット踏破に約10時間余り要する登山になった。北穂高小屋迄は本当に遠く感じたが到着の感動は最高 360度の展望が楽しめて食事も良く おもてなし も行き届き疲れを癒してくれる北穂高小屋で有った。登山家に人気の小屋である事が理解できた。

26日(月)も快晴の中スタート北穂高岳にて全員の集合写真 紅葉時をイメージしながら涸沢カールの景色を楽しみ16時過ぎ上高地バスターミナルに到着 臨時バスに乗車 あかんだな 駐車場へ 到着後 平湯温泉 ひらゆの 森にて登山の疲れを癒し帰路に就く。

今回の槍ヶ岳山行計画初期案は 上高地⇔槍ヶ岳 で体力が有れば難易度も高く無く無難な一般コース設定で有ったが、個人的には大キレット(長谷川ピークと飛驒泣き)制覇したい気持ちもあり ワイケンでの訓練で意思は固まっていた。今回参加の4名の男性は全員ワイケンにての特訓生であったのも大変心強く思えた。

槍ヶ岳⇒北穂高コースは参加者全員未体験者ばかりであったが、一糸乱れず行動 時間は要したが、安全第一をモットーに走破できたのもチームワークのお陰で有った。

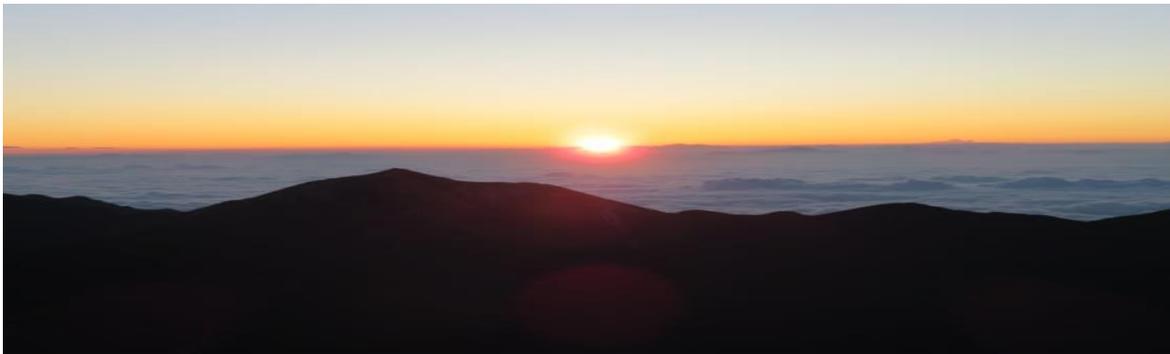
晴天に恵まれた事と同行メンバーと感動を共有できた事に対して感謝 本当にお疲れ様でした。ヒヤリハットなし



8/23 河童橋をバックに



8/24 槍ヶ岳



8/26 北穂高山頂でのご来光



8/26 時 北穂高山頂より大切戸望



8/26 北穂高山頂にて

3000m級の稜線を結ぶ槍・穂高縦走は山友会に入会して憧れのコースでした。

富士山、鳳凰三山に続き夏山に挑戦です。既に体力はバテバテの情けない状況に敢えて参加しました。第1日目は上高地バスターミナルから横尾を經由して槍沢ロッジで宿泊。まだまだツアー客も多く朝一番には槍ヶ岳が朝日に輝き山頂付近の登山者が見えます。羨ましい！！

第2日目槍沢ロッジを快晴の中爽やかに出発。途中はツアー客と抜きつ 抜かれつの山道を進んでいくと峻しい山並みが現れ、とんがり帽子の槍ヶ岳が見え始め快晴の空に堂々と突き出しています。美しい！！やはりここからの景色が最高です。軽く昼食を取り槍ヶ岳山荘にザックを預け空身で登山開始です。ツアー客がロープで支えながら先に前を登る状況です。ロープでのビレイは危険そうな様子を見ながら我々は急な岩を登り、Yケンの経験がフルに生かせるのでスイスイ山頂付近の長いハシゴに辿り着き山頂に到着しました。予想通り岩山は狭く記念写真タイムに時間を取られ、周りはガスがかかって何も見えない。

第3日目槍ヶ岳山荘は夜明け前から雨風が強くなりガスがかかって寒い！！今日の行程を考えると心配です。天気予報は回復傾向のことを頼りに身支度を整えて出発しました。寒い風の中テント場をすぎ斜面をジクザクに進む飛騨乗越の鞍部へ下っていきます。縦走路はどんどん天候が回復してアルプスの山並みがはっきり見え始めてきた。今日の天候に感謝しながら登り降りを繰り返しながら2段ハシゴを超え中岳山頂に出た。背後にはずっと一緒に槍ヶ岳が付いてきます。南方にはゆったりした稜線が続き奥には北穂高岳の荒々しい岩峰が姿を現してきました。広い尾根歩きで天狗原稜線分岐にでた。エスケープルートの最後を進むと南岳小屋に着く。風が冷たく小屋の中で暑いお湯を沸かし昼食タイムに一息。この先はいよいよ峻しい岩陵の大キレットが始まります。緊張！！細かい浮石の多いザレた滑りやすい道を信州川に下り2段ハシゴで一気到大キレットの底に向かいます。さらにクサリ場を過ぎ稜線は大岩が重なり、背後には南岳・獅子鼻岩が聳えて高度感を実感させられます。ペンキ〇に従いジクザクに岩壁を伝い4段ステップを急峻な岩場を下りキレットの底A沢のコルで一息ついた。途中のHピークも気が付かず夢中で超えたようです。高度感が半端でない岩場で誰も怖いと言わない。逆に怖い気持ちが強いと危険な状況を皆で共有しているようです。飛騨泣きは本当に泣きそうなくらい辛い鎖・ハシゴが連続。北穂高小屋が見えてから長く苦しい時間に急な岩場を遂に登り切った。北穂高小屋はツアー客が多く我々とは逆コースに行く若者が遅く羨ましい！

第4日目北穂高岳からの朝は気持ちがよく、遠く富士山が見える雲海を眺めながら涸沢経由で上高地に向かった。涸沢キレットは花畑が美しく沢山の登山者が休憩していました。

今回は快晴のなか大キレット(切戸)の難所を経験者がいないメンバーで、CLの慎重なリードで無事下山出来たことは素晴らしい経験になりました。岩場のバランス感覚・落石が有るなか技術・体力等がメンバーでバラツキが少なく全員揃って行動できたからこそ達成できたことと思います。お疲れ様でした。

木元 隆司

昨年、翌年の槍ヶ岳登山を誘っていただき、自分に登れるか不安に思いながらも、槍ヶ岳には一度は登ってみたいと思っていました。ところが、いつの間にか槍ヶ岳から大キレットを超えて北穂高岳へ縦走する計画になっており、こりゃあまずいと思い、ネットで調べてみると、案の定、上級者向けということで、槍ヶ岳だけなら何とかかなるかという気がしていたのですが、全くの初心

者で入会してまだ2年の自分が挑むのは、ちょっと無謀かなとも思えました。行きたい山と行ける山という言葉が頭に浮かび、迷惑をかけてはいけないし本当に挑戦していいものか、でも、この機会を逃すと行けるかどうかわからないし、と迷いました。しかし、ゆっくり歩くということでしたので、ベテランの方々にサポートしていただければ何とかかなるかと、思い切って参加しました。

1日目

天気回復を祈りつつ、小雨の京田辺を出発。途中、猛烈な雨に会うも上高地では幸運にも回復。意気揚々と槍沢ロッジに向かう。しかし、4日分の荷物のためザックが重く、肩に食い込んで痛い。これで大キレットを歩けるのかと心配になる。この肩痛対策は課題。荷物を少なくしかつ軽くなる様工夫するか、あるいは、体を鍛えるか。まあ、前者かな。

2日目

槍沢ロッジから槍ヶ岳に向かって登る。高度が高くなり、ハアハアという呼吸になると共に徐々に脚が上がらなくなる。槍ヶ岳山荘に到着後、荷物を降ろして、いよいよ槍ヶ岳山頂を目指す。ガスが広がったり、晴れたりの繰り返し。難所ではあるが、相当な覚悟をしていたためか、意外にあっさり山頂に到着。もう着いたのかという感じ。むしろ山荘までの登りの方が大変だった。山頂ではガスのため残念ながら眺望はよくなかったが、あの槍の穂先に立ったのだと感無量になる。

3日目

朝起きると一面の霧。すぐ近くの槍ヶ岳山頂が全く見えない。エスケープもあり得るとして、霧の中を大キレットに向かう。強風の中、注意しながらガレ場を歩く。しかし、風は強いものの、幸運なことに徐々に晴れてきた。大喰岳、中岳、南岳と3000m級の山を越え、いよいよ大キレット。緊張感を持って挑む。大キレットは、ホールドとスタンスはしっかりあるので、高度感を別にすれば、部分的にはY懸と大差ないように感じる。ただし、それが延々と何時間も続くため、体力的にも精神的にも疲れてしまう。最後のダメ押しが北穂高岳の岩場の急登。疲れ切って北穂高小屋に到着。その直後に一面ガスが広がる。少し遅ければ、ガスのため行先の目印が見えなくなるところであり、幸運だった。

4日目

北穂高岳山頂に登り、槍ヶ岳、大キレットを見る。こんなところをよく来られたものだと感慨深い。それから上高地を目指して下山。前穂高岳、奥穂高岳、涸沢岳の山容が素晴らしい。涸沢から横尾に行く途中で野生の熊と遭遇。小さい川の対岸ではあるが間近にいる。渡ってくるといけないので、急いで離れる。もしこちら側にいたらと思うとぞっとする。大キレットの難所も怖いですが、何と言つても一番怖かったのは、すぐ目の前に熊がいたこと。衝撃的だった。やっとの思いで、上高地に到着。4日連続で山を歩いたのは初めてだが、さすがに4日目の16.6Kmはこたえた。達成感を味わい、感動を覚えた山行でした。参加して本当によかった。いい経験をさせていただきました。感謝です。おかげ様で、自信にもなりました。猛暑の後、秋雨前線が停滞し不安定な天気が続く中、歩いている間は雨もなく、幸運でした。皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

若林 憲治

8月23日(金)早朝京田辺出発天気に対して嫌な予感 (自称)晴れ男 晴れ女 (自称)雨男 雨女6名の混成チームも晴れ男女の比率が若干高く60%の晴れの確率でスタート。愛知県近くまでの高速道路は(自称)雨男 雨女の大勝利 前方が見えない程の大雨まさに雪国で良く言われているホワイ

トアウト状態この区間を運転して頂いた M 氏が雨の災難を一手に引き受けて頂き次に運転交代して頂いた N 氏の時は一時小雨に代わり最後に運転して高山辺りでの W の時はすっかり雨も上がり 『あかんだな』 駐車場に到着時青空も見える程快晴に向かった。『あかんだな』 駐車場名が珍しく地元の方に聞くも名の由来誰一人知らないとの返答 改めて確認 『あかんだな山』 の麓にある駐車場で有る事が名の由来で有る事が判り納得 飛騨バスに乗り換え上高地へ 流石は観光地だけ有り海外の方も多く見られ此处迄は観光気分梓川を左に見つつ歩き続ける。今朝方迄の雨のせいか梓川も少し濁りが見られるも上流に向かう程澄んだ色に変わりマイナスイオンを体感しながら横尾経由今夜のポイントである槍沢ロッジにはほぼ予定通り到着。槍沢ロッジには 5~6 名入浴できるお風呂が有り山小屋でのお風呂に浸かり疲れを癒す事が出来た。又 設置された望遠鏡で遠く 槍ヶ岳が見え感動

24 日(土)早朝 6 時過ぎ快晴の中 次の目的地である槍ヶ岳山荘へ殺生ヒュッテを過ぎた頃から左手薬指、中指の先に少ししびれを感じながら(高山病?) 槍ヶ岳山荘には 11 時過ぎ予定通り到着 休養後 13 時過ぎ槍の頂点に向かってスタート約 30 分で登頂 ガスが少し出ており頂上からの視界は良く無く早々に下山 夕刻には槍ヶ岳全体像が映し出され目の前を見る槍ヶ岳に、改めて感動 長野県地元の方やこの地区を登山される方も 槍が見えましたか? と話題に成る程話題性の有る山で富士山と匹敵するほど知名度が高い場所に自分が立っている事に対して改めて感動。

25 日(日)早朝も天気恵まれ今回の難関コースへのスタート聞きしに勝るコースで有った。緊張感を維持しながら慎重登山で疲労感も含めて予定よりかなり北穂高小屋到着時間は遅れたが全員無事に到着 踏破出来た喜びを感じ思わず全員ハイタッチ

北穂高小屋が有名で人気小屋である事が良く理解できた。

北穂高岳山頂よりの展望は四方八方有名山ばかり 槍ヶ岳 中岳 南岳 笠ヶ岳 大天井岳 常念岳 奥穂高岳 前穂高岳 西穂高岳が手に取るごとく遠くには富士山も一望できた。夜には満天の星 オリオン星座 天の川(私は未確認) 夕飯も美味しく頂け登山家への対応も良くて問題はなかったが、北穂高小屋に泊まる登山家が多く早々予約していた事で部屋は個室で有ったが 5 人部屋(布団は 5 枚)で 6 名が宿泊する羽目になる。疲労感もピークに達しており直ぐに爆睡 左程気にもならなかった。

26 日(月) 新穂高岳でご来光を仰ぎ快晴の中 6 時にスタート 何ヶ所かは注意喚起する所も有ったがキレット制覇組には何ら問題なく涸沢小屋到着 紅葉時期必ず話題に成る涸沢カールの紅葉をイメージしながら下山開始も長い移動時間に疲労困憊 若手? に抜かれて行くのを横目にただ ひたすら歩き続けた。下山中 人懐こい 雉鳩 ライチョウ親子 熊(1.5m~2.0m 有ったかな?) との 出会い 自然に触れ満喫できた山行に成った。上高地到着後は 『あかんだな』 バス停に向かい平湯温泉に移動 ひらゆの 森にて入浴(500 円) 帰宅時間気にせずゆっくりと平湯温泉に浸かり疲労回復 帰りはお疲れの中 M 氏 N 氏 A さん安全運転頂き 23 時過ぎ無事に全員帰宅する事が出来た。ヒヤリハットも無く私自身の念願でも有った槍ヶ岳登山が出来たのも参加者全員の糸乱れぬ行動とチームワークの賜と仲間に感謝。本当に記憶に残る感動多き山行であった。

最後に今回の登山で感じた事

槍ヶ岳登山だけで有れば特別意識もしなくて通常トレニングでも充分槍ヶ岳登山は可能ですが 今回の北穂高岳 大キレット(長谷川ピーク 飛騨泣き)難コースをクリアできたのも先輩諸氏の指導の下ワイケン岩稜トレニングのお陰で有り改めて感謝致した次第です。

槍ヶ岳計画の段階でワイケントレーニングは参加者必修テーマと心得て立案 ワイケン頭での懸垂下降 三点支持で頭での登り 頭から三点支持で岩稜をワイケン入口迄下山 今回参加した男性 4 名が訓練に参加頂いたお陰で岩場に対する恐怖感も和らぎヒヤリハットも無く初大キレットも攻略

出来たと思う。参加者に対して改めて感謝と心強く感じられた事を付け加えさせていただきます。
槍ヶ岳から北穂高岳ご参加の皆さん本当にお疲れ様でした。

森本 竜二

皆が山小屋らしい小屋と評する北穂高小屋で夜中にトイレに行くと、満天の星空。夏の大三角形も星が多すぎて探せない星空に、天の川銀河を初めて見る事ができた。首が疲れて北の方向に目をやると、黒くクッキリと浮かぶ槍ヶ岳のシルエット。

夜明け前には南東の空に冬の星座オリオン座が現れ、雲海の彼方からは太陽が昇ってきた。

山友会に入会してまる 2 年が経ち、初めて夏山登山に参加することにしました。仕事の休めそうな 8/23～8/26 槍ヶ岳から北穂高岳を選択するも、山と溪谷 7 月号の特集「槍ヶ岳と穂高岳」を読み、難度の高い大キレットを知りかなり心配になりました。

2 か月の準備期間があり、岩稜トレーニング・日程を詰めての六甲縦走で不安は減少しましたが、初めての 3 千メートル級、初めての山小屋泊、初めての 4 日連続山行・・・。

予定通りに槍ヶ岳、北穂高岳を登頂し無事に帰宅できたことを CL 若林さんはじめ先輩メンバーに感謝します。

北條 都

もう二度と行くことがないと思っていた槍ヶ岳に是非登ってみたい。

大キレットも行ってみたいけれど行けるかどうか自信がなく迷っていたが、思い切って連れて行って貰うことにした。

槍沢ロッジまでは調子よく登ったが、そこから先の槍ヶ岳、北穂高岳までの大キレットは、さすがに梯子や鎖を伝っていく崖に慎重に歩を進め、やっと無事北穂高岳まで到着することが出来た。

CL の若林さんのこれから更に気を引き締めて慎重にという言葉は何回も聞いた。その言葉に支えられて、みんなが無事に帰ることが出来たと思う。

今回、槍沢ロッジの夕食を楽しみにしていたが、到着時間の関係で食べられなかったのが、ちょっと残念。お風呂のある山小屋でゆったりした談話室もあり、槍に登るぞという心の準備が出来た。

槍ヶ岳山荘も北穂高小屋も 30 年ほど前に行ったときとはもちろん建て替わっていて綺麗になっていた。

特に北穂高小屋は、こぢんまりとしていて山小屋らしい雰囲気があり、夕食の豚の生姜焼きは非常に美味しかった。

横尾から上高地のバスに乗るまで、時間があまりなく必死で歩いたのがしんどかったけど、今となってはいい思い出だ。

もう、3000メートルを超える山に登ることが出来ないかも知れないが、大満足の山行だった。同行のみなさんどうもお世話になりました。

秋山 正子

あかんだな 駐車場からシャトルバスへ乗車（若林さんがあかんだな の名前の由来をいろいろな人に聞いてみましたが結局わからずじまいでした。あかんだったな）

10:20 発 上高地行き

ここへ着くまでに土砂降りの雨がつついていて、これからの山行に暗雲をもたらしていたのですが、上高地に着くなりまさに晴天！よかった！！

この日は槍沢ロッジ泊ということではほとんど大変なところはありませんでした。40年ぶりの徳沢、横尾の変わりようにびっくり。ここはもはや山小屋ではなく、高級避暑地でした。16:30 に槍沢ロ

ッジに到着。明日も晴れたらいいな。今回はじめて睡眠導入剤なるものを持っていったのですがとてもよく眠れました。これからの小屋泊まりにはかせないですね。

次の日、6時出発、前日、前々日に降ったと思われる沢の水量が半端ないです。殺生分岐手前から呼吸が苦しくなり、だんだん思い出してきた。3000m超えの高山病。ただひたすら余計なことをせず、もくもくと歩き続ける。突然目の前に槍だけが見えた！カンフル剤のように苦しさを忘れてカメラでその勇士を撮りつづける。山小屋がみえ、もうすぐと、頑張っただけで結局それは殺生ヒュッテ。残念！なかなか近づかない槍ガ岳。ここもつらかったですね。槍をずっと眺めながらやっと最後の登り。お昼前、目の前に山荘。心のそこからうれしかった。1時間30分やすんでから身軽で出発。まあ、込み具合もまじなほうで、はしごの連続。よく写真で見ているやつだと思いながら順番待ちしながら30分後登頂！とりあえずほっとして写真撮影。しかし、混んでいるのでそそくさと退場です。再び山荘に戻ったのは14時16分。後はすることもなく休憩です。

私たちは昼ごはんはほとんど持っていったものを食べたのですが、ちなみに槍ガ岳ではラーメン、カレー、牛丼など1200円でした。朝6時に手作りのクロワッサンなどが出てくるのですが結構有名らしくカメラを持った人たちが待ち構えていてパンを取るのちょっと待ってと、言われました。クロワッサンその他のパンは一個500円でした。

3日目、朝6時出発、天狗原、中岳、あたりは強風でとても寒かったです。南岳山荘で休憩していいよ大キレット。いきなりくだりはじめます。幾多のがけをよじ登りくだり、どこが大キレットで、長谷川ピークか、飛騨泣きかわからないまま最後、A沢のコルに立ち、垂直に立ち上がる北穂を見上げたとき、無理だ！と思いました。素人の私が行くところではないと！しばし見上げて帰る道はないと自分に言い聞かせ、岩に取り付いてくたくたになって16時28分に北穂小屋に到着。生きていたよ！

北穂の小屋はとても心地よかったです。水もお湯も外の売店にて無料で分けていただけました。少し小さい小屋でしたがアットホームな感じでした。

4日目、5時46分出発。この日は歩く距離が長いので急がないと。しかし、北穂岳を降りて涸れ沢までに4時間以上かかってしまいました。私も膝が痛い。しかし、ゆっくりしている時間はない。屏風岩を過ぎて横尾に近づいたところでなんと！熊！！横の沢の対岸を歩いているのです。距離は5～6メートル？そのうえ、沢を降りてこようとするのです。みんなで大きな声を出しながら走らず、急いで通過！さすがにあの近さにはびびりました。

13時15分、横尾到着！少し休んで14時40分出発。16時50分上高地バスターミナル到着。混んではいたのですがバスの増便があり、すぐに乗り込むことができほっとしました。あかんだな駐車場の近くのスーパー銭湯でそそくさと入湯し車に乗り込んで帰京しました。家に帰ったのは夜の12時前でした。

しかし、よく、経験のないメンバーを連れて行ってくださったと心から若林さんに感謝です。そして、一緒に行った皆さん、ありがとうございます。ほんとに貴重な経験をさせていただきました。しかし、しばらくは行かないと思います。

(今回は本当に天候に恵まれ、写真もとれました。皆さんの日ごろの行いのおかげです。)

写真は 木元さん提供

①河童橋



②明神岳・前穂高岳



③槍ヶ岳



④槍ヶ岳



⑤槍ヶ岳



⑥槍ヶ岳



⑦槍ヶ岳



⑧槍ヶ岳頂上から見る槍ヶ岳山荘



⑨槍ヶ岳



⑩よく見ると雷鳥がいます



⑪大キレット



⑫大キレット



⑬大キレット



⑭大キレット



⑮北穂高岳から見るご来光



⑯北穂高岳から見る槍ヶ岳



⑰北穂高岳から見る槍ヶ岳大キレット



⑱北穂高岳から見る雲海



⑲涸沢カール・前穂高岳・奥穂高岳



⑳涸沢カール(遠くに涸沢ヒュッテ)



㉑涸沢小屋



㉒涸沢カール



㉓本谷橋



㉔本谷橋

